

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 富屋 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	43人	算数	43人	理科	43人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人
------	----	-----	----	-----	----	-----

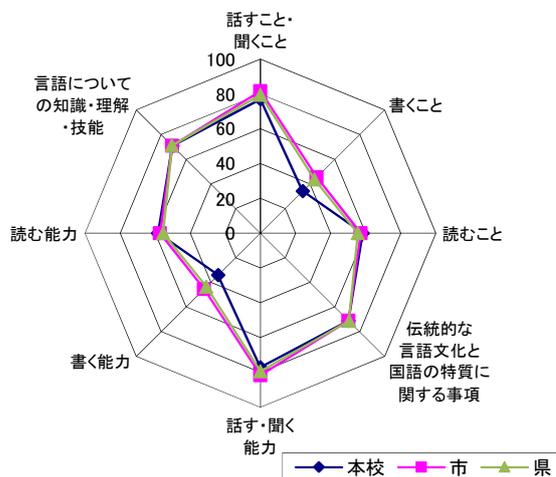
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	77.0	81.6	79.4
	書くこと	34.1	45.4	43.6
	読むこと	58.3	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.0	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	77.0	81.6	79.4
	書く能力	34.1	45.4	43.6
	読む能力	58.3	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	71.0	71.1	71.4



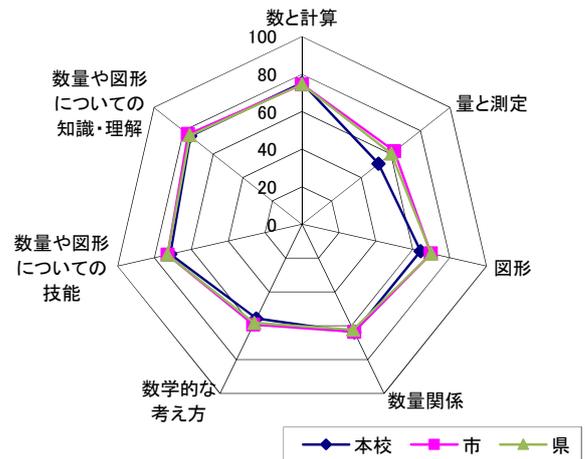
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「理由を挙げながら筋道を立てて話す」の設問では、県や市の平均をやや上回った。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言を整理する」の設問では、県や市の平均を大きく下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で小集団での話し合い活動を多く取り入れているが、今後もそれを継続していく。 ・発言した後に、「どうしてそう思ったの？」等の理由を聞くことで、自分の考えについて理由を挙げながら分かりやすく説明する力を身に付けさせていく。 ・話し合い活動の中での司会等の役割を明確にし、相手の考えを聞いたり、自分の考えを話したりする場を設定していく。
書くこと	●「文章構成を意識して報告レポートを書く」「メモを基に、報告レポートに適切な内容を書き入れる」「メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く」等、書くことの設問ではすべてにおいて県や市の平均を下回った。	・国語の授業だけでなく、日頃の授業の中でも書く活動を意図的に取り入れ、文章を書くことに慣れさせていく。 ・書くことを苦手としている児童にも、文章の型を設定して書かせるなどして苦手意識を解消してきたが、今後も継続し、技能の向上を図る。
読むこと	○「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」「中心となる語や文を捉えて読む」の設問では、いずれも県や市の平均を上回った。「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する」の設問に関しては、県や市の平均を大きく上回った。 ●「段落の要点を捉えて読む」の設問においては、県や市の平均を下回った。	・説明文の学習では、文章の構成を意識させながら、キーワード・キーセンテンスを見つけて文章の内容を理解させる活動を多く取り入れているが、今後もそれを継続していく。 ・文章のまとまりを意識させ、まとまりごとに内容が理解できるよう丁寧な指導を心がけ、指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●「日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方」「国語辞典の使い方」の設問では、県や市の平均を大きく下回った。特にローマ字に関しては、正答率が23.8%とかなり低かった。	・ローマ字に関しては、朝の学習や家庭学習等で繰り返し練習させ、定着を図っていく。また、日常生活の中でも、身近にあるローマ字を意識させていく。 ・日々の学習の中でも、分からない言葉と出合った時には国語辞典や漢字辞典調べる習慣を身に付けさせていく。そのために、国語辞典や漢字辞典がすぐ使えるよう環境も整えておく。また、家庭学習においても積極的に使えるよう協力を呼び掛ける。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.4	74.5	74.6
	量と測定	51.8	62.4	60.4
	図形	64.3	69.9	70.1
	数量関係	63.8	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	55.7	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	71.4	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	75.5	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

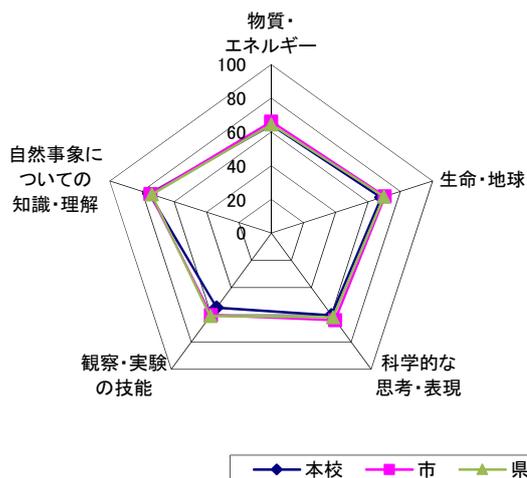
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○数と計算については、概ね県や市の平均を上回った。</p> <p>●わり算の問題に関しては、県や市の平均を下回った。余りのある除法の計算の答えを確かめる式を完成させる問題や3位数×2位数の正答率が低かった。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習等で習熟を図ると共に、今後も学力向上週間を設けるなどして基礎基本の定着を図る。</p> <p>・少人数指導担当教諭と連携し、一人一人の学習の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。</p>
量と測定	<p>●「ドッジボール1個のおよその重さを選ぶ」、「はかりが示す重さを読み取り、みかんの重さを求める」設問では、県や市の平均を大きく下回った。</p>	<p>・身近な物を教材として取り入れ、日常生活と学習内容を関連して考えられるようにする。</p> <p>・実際に長さを測ったり、重さを量ったりなど体験学習を積極的に取り入れることで、量感を養っていく。</p> <p>・算数の学習だけではなく、日常生活の中で、重さ、長さ、時間などを話題にすることで、量感に対して意識を向けていく。</p>
図形	<p>○三角形の作図は、県や市の平均を大きく上回った。</p> <p>●正方形に内接する円の直径を求めたり、箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選んだりする設問では、県や市の平均を大きく下回った。半径直径という言葉の理解にとどまらず、意味を理解し、活用する力が求められると考える。</p>	<p>・朝の学習等で、基礎基本の定着を図る。</p> <p>・基礎基本の問題を解くばかりでなく、応用問題にもチャレンジし、その考え方に慣れていくようプリント等で習熟を図る。</p> <p>・用語の意味を理解するだけでなく、意味をきちんと理解させ、その上で活用できる力を身につけさせる。</p>
数量関係	<p>○棒グラフの読み取りについては、県や市の平均を上回った。</p> <p>●2つのグラフを比べ、「棒の高さが同じでも表す人数が異なることを説明する」「ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める」「もう一つのイベントに参加できないわけを説明する」等の活用問題は県や市の平均を下回った。</p>	<p>・棒グラフなどは、理科や学級活動など他教科や領域でも読んだり書いたりしている。今後も機会を捉え、棒グラフ等を活用し、読み書きに慣れるよう指導する。</p> <p>・教科書の発展的な問題や調査問題等を用いて、学習したことを活用して解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定する。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.1	66.1	64.4
	生命・地球	68.1	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	60.4	64.1	61.9
	観察・実験の技能	54.8	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	75.5	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「物の重さを比べる道具の名称が分かる」「天秤が釣り合うことから、物の重さを推測する」の設問では、県や市の平均を上回った。</p> <p>●「実験結果からゴムをねじる回数と進む距離を考察する」「磁石の性質を基に口を閉じる方法が分かる」「豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する」では、県や市の平均を下回った。</p>	<p>・同じ実験の中で条件を変えて予想し、結果を比較するような学習活動を多く経験させる。</p> <p>・実験結果をきちんと読み取り、違いが生じた理由などを自分で見つけられるように、今後も継続して指導する。</p> <p>・実験・観察による変化や様子にしっかり着目させ、口頭による説明や記述による説明等の言語活動を重視し、理解を深められるようにする。</p>
生命・地球	<p>○「温度計の適切な操作方法が分かる」「記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明する」の設問については、県や市の平均を大きく上回った。</p> <p>●「図を基に昆虫を選択し、その理由を説明する」「虫眼鏡の適切な使い方が分かる」「時間によるかげの変化の仕方が分かる」の設問では、県や市の平均を大きく下回った。</p>	<p>・生物を観察するための道具の適切な扱い方については機会あるごとに指導し、学習した基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p> <p>・家や学校などの生活の場において、方位方角をきちんと認識できるように指導していく。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の質問では、県や市の平均を上回った。帰宅後の生活のリズムができ、習慣化されていることが伺える。今後も継続していけるように、引き続き、家庭での過ごし方の大切さについて指導していく。

○「難しい問題にであうと、よりやる気ができる」では、県・市の平均を上回った。今後も引き続き、興味や関心が持てる学習内容を工夫し、取り組ませていきたい。

○「勉強していて、おもしろい・楽しいと思うことがある」の質問では、県や市の平均を上回った。これらの意欲を持続できるように、授業内容や教材などを工夫していく。

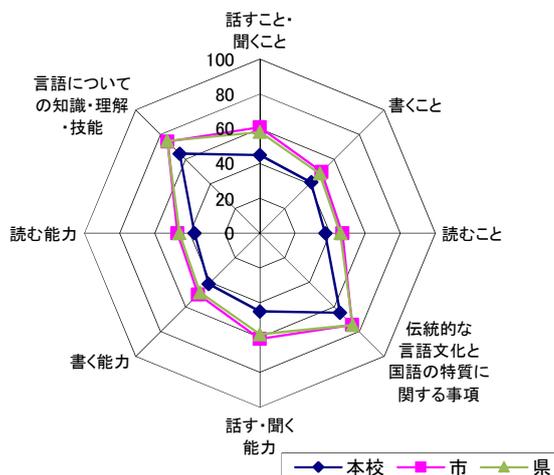
●授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しいと考えている児童が多かった。授業の中で、自分の考えや意見を書く活動を多く取り入れ、徐々に書くことへの抵抗をなくすよう指導する。

●「家でテストで間違えた問題について勉強している」の質問に対しては、県や市の平均を大きく下回った。学校では、間違えた箇所をより意識できるよう、消さずに残し、赤で訂正するよう、改めて指導していく。家庭でも、同様のやり方で、自分の間違いから学ぶことができるように、自主学習の方法や内容について丁寧に指導する。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	44.9	60.8	58.1
	書くこと	41.3	49.8	48.3
	読むこと	37.3	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.6	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	44.9	60.8	58.1
	書く能力	41.3	49.8	48.3
	読む能力	37.3	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	64.6	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

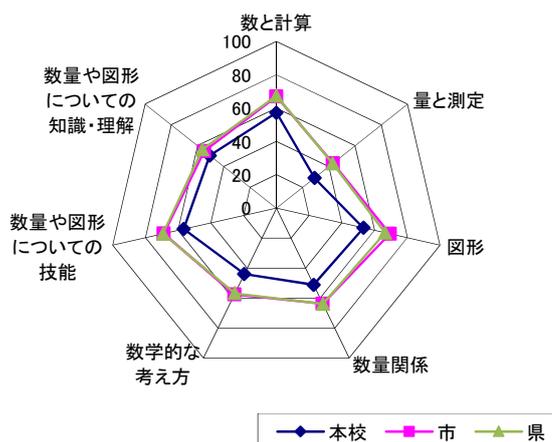
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○昨年度の第5学年の調査結果と比較して、正答率がやや上がった。 ●全体として、県や市の正答率を大きく下回った。話し合いの中で意見の共通点や相違点を考え、整理したり、司会の役割を理解して進行したりする設問ができなかった。	・小集団の中で話し合い活動を多く取り入れ、司会等の役割を交代しながら、相手の考えを聞いたり、自分の考えを話したりする場を設定する。その中で、様々な意見を聞き、自分の意見と比べられるようにする。
書くこと	○「掲示物の内容に合う資料を選ぶ」の設問では、県や市の正答率をやや下回った。 ●「資料(表)を基に説明する」の設問では、県や市の正答率を大きく下回った。	・国語だけでなく、総合的な学習の時間や学校行事などの振り返りを通して文章を書く機会を多く設定し、自分の考えや思いについての文章を書くことに慣れさせていく。 ・条件を付けて文章を書かせたり、資料から読み取ったことや考えたことを書かせたりするなどの活動を取り入れ、スキルの向上を図る。
読むこと	○物語文において、「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」設問については、県や市の正答率をやや下回った。 ●説明文と物語文のどちらについても、県や市の正答率を下回った。特に、説明文では中心となる語や文を捉える設問、物語文では人物についての描写から心情を読み取る設問で県や市の正答率を大きく下回った。	・物語文の学習では、登場人物の言動だけでなく、場面の様子や、場面の移り変わりにも着目させて読み味わわせる。 ・説明文の学習では、大きなまとまりの中でキーワード・キーセンテンスを見つける学習を通して、文章の内容を理解させるとともに、まとまりごとの関係に着目させ、文章の構成について気付かせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を読む設問では、正答率が高く、県や市の正答率を上回ったものもあった。 ●漢字の書き・部首や漢字辞典の使い方、慣用句の使い方の設問では、県や市の正答率を大きく下回った。	・漢字については、引き続き授業だけでなく、朝の学習や家庭学習で繰り返し練習させ、定着を図っていく。 ・日々の学習の中で国語辞典や漢字辞典を使ったり、慣用句にふれる活動を取り入れたたりして、既習事項の定着を図るとともに、日常生活の中で生かしていくようにする。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.3	66.9	67.4
	量と測定	29.1	43.2	43.0
	図形	53.3	69.4	66.5
	数量関係	51.1	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	44.0	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	56.7	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	50.7	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

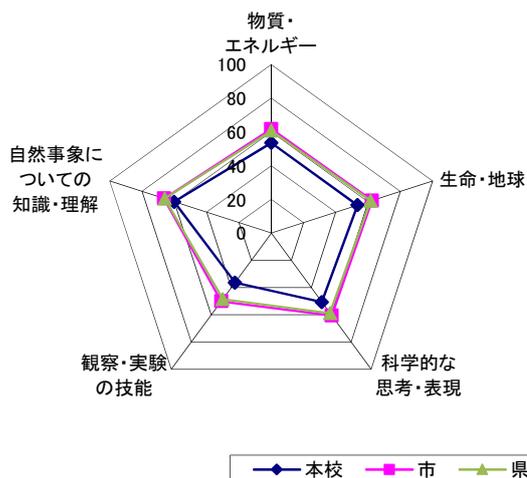
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○昨年度(第4学年時)と比較して正答率が上がった。</p> <p>●かけ算の計算は県や市の正答率をやや下回るとどまった。</p> <p>●全体として県や市の正答率を下回った。特に、わり算のあまりを出す計算やテープの長さを倍で表す問題において正答率が低かった。</p>	<p>・基本的な計算を定着できるよう、朝の学習や家庭学習で補っていく。</p> <p>・少人数指導教諭と連携し、一人一人の学習の実態を把握し、授業内容や課題の難易度を変えながら、指導にあたっていく。</p>
量と測定	<p>●全体として県や市の正答率を大きく下回った。正答率は30%を下回った。特に、はがきのおおよそ面積を求める問題や設問に登場する人物の考えた角度の求め方を問われる問題が正答率が低く、無回答者も約20%いた。</p>	<p>・問題文が長い問題の正答率が低いので、問題をしっかり把握するために、問題文を黙読させ、音読させ、重要部分に線を引かせるようにする。</p> <p>・算数の各領域において、身近なものについて例えさせ、数の大きさが日常生活にあるものに置き換えられるように、授業で学んだことを生活で生かせるようにしていく。</p>
図形	<p>○ものの位置を数量や単位を使ってあらわす問題は約70%の正答率だった。</p> <p>●全体として市の平均を大きく下回った。特に、平行四辺形の作図や図形の面積の求め方を説明する設問について正答率が低く、無回答者も約30%いた。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習プリント等で反復練習することを通して、作図の手順や道具の使い方に慣れさせるとともに、基礎的な内容について習熟させる。</p> <p>・自分の考えを言葉で説明させたり、友達の考え方を説明させたりする場面を設ける。</p>
数量関係	<p>○表に当てはまる数を答える問題は約70%の正答率だった。</p> <p>●折れ線グラフから設問に出てくる登場人物の考えた求め方を説明する問題において正答率は10%を下回り、約35%の児童が無回答だった。</p>	<p>・複雑な問題について、設問の内容を正しく読み取れるよう、分かっていることや求めることを整理したり、図に表したりするなど解決の手順を少しずつ考えていけるよう支援していく。</p> <p>・友達の考えを聞いたり自分の考えを説明したりする場を多く設け、考えを適切に表現できるようにしていく。</p> <p>・無回答児童が多いので、日ごろの学習から自分なりの考え方を書くよう促していく。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.5	61.7	60.7
	生命・地球	53.4	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	50.7	60.6	58.9
	観察・実験の技能	36.4	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	60.1	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○金属、水、空気と温度の正答率は、県や市の平均正答率をやや下回った。「空気を入れたつつを押し棒でおした時の空気の体積や手ごたえの変化を推測する設問」は75%以上の正答率であった。</p> <p>○昨年度(第4学年時)よりも正答率が上がった。</p> <p>●「ポットからお湯のできる仕組みを推測する」の設問での正答率は約30%だった。</p> <p>●「水の量の異なるペットボトルを冷やして、水が少ないペットボトルのほうがへこんだ理由を推測する」の設問での正答率は約30%だった。</p> <p>●「観察・実験の技能」の正答率が県や市の平均正答率を大きく下回った。</p>	<p>・実験から学習した事を活用したり、日常生活に置き換えて考えたりする設問の正答率が低かったので、日ごろの実験から予想や仮説を立てた上で、理科の見方・考え方をもとに検証の計画を立て、その実験結果からの考察をし、自分の知識とできるようにノート等にしっかりとまとめさせていく。</p> <p>・実験等が行えないものに関しては、映像資料などを活用し、実感を伴った経験をさせていく。</p>
生命・地球	<p>○昨年度(第4学年時)よりも正答率が上がった。</p> <p>●「月と星」の正答率は45%だった。特に、方位磁石の見方の問題と、星座の動きの観察カードに何を付け加えれば、動いていることがわかるか考える設問の正答率が低かった。</p> <p>●「冷やしたコップの周りについて水滴ができる理由を説明する」という活用力を問う問題は、県や市の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・実験器具を実際に使い、使い方を学ばせていく。</p> <p>・様々な課題について、観察や実験をとおして得られる事象や結果から、自分の意見を持ち、グループで話し合い活動等を行い、様々な視点から問題を解決する力や、自分の予想や考察を説明する力を身に付けさせていく。</p>

宇都宮市立富屋小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎朝、朝食を食べている。」は100%であり、「家でのみまりや約束を守っている」児童の肯定割合も高かった。
 ○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「授業に集中している」「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定回答割合は90%以上であり県や市の割合と同等かやや上回っている。今後も、学習や生活において、様々な活動を通して、自尊心、自己肯定感、自己有用感を醸成していきたい。
 ○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「人と話すことは楽しい」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した児童の割合はいずれも9割前後で、県や市の割合と比較しても同等か上回っている。これは、授業で、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、互いの意見を交換して学び合っていく活動を重視してきた結果だと考えられる。今後も継続していきたい。
 ○全ての学習(国語・社会・算数・理科・総合的な学習の時間)において、「将来のために大切だと思っている」児童は90%を超え、国語・社会・算数・理科において、「授業の内容がよく分かる」と回答した児童も90%前後と高い肯定率を示している。児童の思いや意欲を今後の学習に生かしながら、より分かる授業を目指して取り組みたい。
 ○社会・理科については、「好き」と回答した児童は県や市の平均を上回った。児童の実生活と結びつけた学習活動を実践する中で、児童の疑問や気付きを出発点にして、思考力や判断力、表現力等を養いたい。
 ●「家の人と学校のできごとについて話をしている」や「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定割合は県や市の割合を下回った。高学年という発達段階では自分のことを話したがらない児童もいるかもしれないが、行事の振り返りや宿題の工夫など、家の人と話ができる機会をつくっていききたい。
 ●国語・算数については、「好き」と回答した児童が60%程度で、県や市の割合を下回った。児童の多くは「将来のために大切だと思っている」「授業の内容がよく分かる」と回答しているものの、教科に対する「好き」という肯定感をもてずにいる。児童の興味や関心を高めたり、スモールステップの計画を立てたりする工夫をしながら基礎・基本の定着を図り、少しずつできたと思えるような達成感を味わわせ、国語・算数に対する抵抗感をなくしていきたい。
 ●「自分にはよいところがある」「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」について、県や市の割合を下回った。課題発見や課題解決、調べ学習、学習のまとめや発表などの学習をおととして、学習を自分事として捉えさせ、調べ、解決していく喜びを味わわせることで、達成感や自己有用感を育み、学習や生活の意欲につなげたい。

宇都宮市立富屋小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあての提示文・言葉の吟味	めあてと学習問題を区別するために提示文の言葉を吟味して、焦点化された目当てを提示している。	「授業では、目標が示されている。」「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている。」等の質問への肯定回答率は、県や市の割合とほぼ同等である。学習活動を焦点化したねらいを明確に提示し、ねらいに沿って授業を展開してきた結果と言える。今後も継続していく。
課題に対する考えの足跡が残るようなノート指導(板書)	発達の段階に応じたノート指導を行い、各教科の授業の中で自分の考えを書く活動を意図的に取り入れている。また、思考の道筋が分かる板書計画と実践(模造紙を活用して教室に掲示し、授業の流れの可視化を図る。)	国語と算数の授業を中心に、思考の道筋が分かる板書の工夫と、発達の段階に応じたノート指導を実践しているが、自分の考えやその理由を書く活動に関する質問の肯定回答率が県や市の平均をやや下回っている。今後も授業の中で「書く」活動を意図的に取り入れ、書くことへの抵抗感をなくしていきたい。
授業におけるまとめ・振り返りの充実(自分の言葉で文章表現させる。)	授業の最後に、本時の課題に対するまとめを板書して全員で確認し、一人一人が分かったことなどを振り返り、ノートに自分の言葉で文章表現する時間を設けている。	めあてに即した「まとめ」の表記と、学習活動を通しての自己の変容を振り返り、文章表現させるよう心掛けている。しかし、授業における「まとめ」と「振り返り」に関する質問の肯定回答率は高いとは言えない。今後はさらに、めあてに即した「まとめ」と「振り返り」の実践を強化していく。